

| 学校の運営計画 (4月) | | 評価 (3月) | | | | |
|--|--|---|--|--|---|--|
| 学校の運営方針 | The Main Creator (社会の変化に対応し、社会を支え、その発展に寄与する人材) を育成する。 Think Globally (国際的な視野をもって考える) と Act Locally (地域で活躍する実践) を前面に出して教育活動を展開することで、The Main Creatorの基盤となる「体力(健康)」「学力(英知)」「豊かな心(情操)」とそれを将来にわたって貫くための「志(フロンティアスピリット)」を伸長させる。 | | | | | |
| 昨年の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | | | | |
| <p><成果> 学校全体の数値目標「受験倍率2.3倍」「生徒の誇りや愛着75%」はあと一歩ではあるが達成できなかった。しかし、いずれも高い数値を維持しており生徒の学校生活への満足度は高く本校の特色ある教育活動は生徒や地域社会から確実に評価されている。これは学校行事の充実や授業改善、インターンシップをはじめとする体験活動を重視したキャリア教育の充実、チャレンジする生徒を粘り強く支援した成果と言える。</p> <p><課題> 今後の課題の1つは「生徒の主体性・自発性を一層伸長させること」である。自ら挑戦し達成感や充実感を感じることで、他者からほめられ自信を持つことで学校への誇りや愛着が一層高まることを期待したい。2つ目の課題は「教職員が教育目標の実現に向けてベクトルを揃え、さらなる特色化を図ること」である。北九州高校愛とチームワークを高め、ワンランクアップに挑戦し、Main Creatorの育成に努めることで目標の達成を目指したい。</p> | <p>1 体力(健康)の向上 ・部活動加入率93%以上 ・遅刻の半減</p> <p>2 学力(英知)の向上 ・学習時間倍増(1時間以上) ・進路の実現100%(うち国公立15名以上)</p> <p>3 豊かな心(情操)の育成 ・学校への誇りや愛着75%以上 ・インターンシップ実施率100%</p> <p>4 教職員のチームワークと指導力向上 「北九州高校愛」「ワンランクアップ」 「全ては生徒の素敵な笑顔のために」</p> | <p>(1) 体験入部の充実、成績表彰、掲示等により部活動を応援し、高体連躍進校20位以内を目指す (2) 遅刻5回以上0名(遅刻の常習をなくす) (3) 生徒会・PTAと協力した登校指導・挨拶運動の実施により自己指導能力の育成を図る</p> <p>(1) 自習教室等の活用推進により1日1時間以上(3年は2時間以上)自学自習の習慣を確立 (2) 3年はセンター試験受験・国公立受験50名以上、1・2年は進研模試偏差値46以上1割増 (3) アクティブラーニングやICTを活用した授業等を月1回以上実施し、授業力向上に努める</p> <p>(1) 生徒会活動の活性化、学校行事における主体的・組織的取組の推進による自己指導能力の育成 (2) 幼・小・中・特支・大との交流会、インターンシップ等への積極的参加による自尊心・自己肯定感の向上 (3) 面談週間、全員面談等の活用による生徒理解と生徒情報の共有による積極的生徒指導の推進</p> <p>(1) 1日1度のプラスメッセージ、各担当分野で前年度よりワンランクアップを実行し業務改善を推進 (2) 外部団体の研修、PTAとの交流会、幼・小・中・特支・大との交流会のいずれかに1回以上参加 (3) 人権・同和教育やインクルーシブ教育等の研修会に1回以上参加又は関連本2冊以上の読了</p> | | | | |
| | 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価(3月) | 次年度の主な課題 | |
| | 学習指導 | <p>基本的生活習慣と基礎学力の定着を図るために、遅刻・欠席数の半減と家庭学習時間の増加を目指す。</p> <p>社会で生き抜くために必要な「確かな学力」を身につけ、主体的に考えることができる生徒を育てる。</p> | <p>学年団との面談を積極的に行い、家庭との連携を密にすることで、各学年遅刻5回以上0名にする。 学期に1回学習時間調査を行い、各学年や教科で分析に基づいた方策をとり、1日1時間以上の家庭学習時間を確保する。 各自で授業評価アンケートの分析に基づいた授業改善を行い、基礎学力の定着を図る。 各自が月1回以上のICTやアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行い、主体的・対話的で深い学びの実践に取り組む。 総学発表会や活動報告会が生徒の共感的人間関係と自己有用感を高める場となるように、外部の協力を得ながら、さらに質の向上を図る。 新しい学習指導要領や入試制度の研修を行い、「確かな学力」を育成するために研究授業や教科協議を積極的に活用し、授業改善に取り組む。</p> | | | |
| | | | <p>学力向上を図るために、土曜講座・希望制課外を年度当初に計画し、確実に実施する。特に3年生は国公立大学合格15名、センター試験受験50名を目標とする。</p> <p>進路ガイダンスや体験活動を計画し、経験や体験を通して主体的に学ぶ姿勢を育成させる。個々の適性を把握し自らの将来像を考える機会を適宜設ける。</p> | <p>土曜講座は年10回を実施し、希望制課外は5月より実施する。 国公立受験者50名以上を目指す。特に小論文指導を図るため外部講師による講座を3回以上実施する。 校外模試を年4回実施し、結果を分析し、偏差値46以上1割増を目指す。 大学訪問を各学年で行うことで、進学意欲と学習意欲の向上を目指す。 職業体験講座、体験型授業を1・2年生で各1回は実施し、学ぶこと働くことの意義を身につけさせる。 2学年全生徒対象にインターンシップを実施するなど、体験活動の参加者300人以上を目指す。</p> | | |
| <p>基本的生活の確立に向けての学年指導を徹底し、社会規範、校則の遵守の精神の涵養と自己指導力の育成に努める。</p> <p>自主・自立の精神を育成のため部活動及び生徒会活動の活性化を目指すとともにその成果を表彰することで活動意欲の高揚を図る。</p> | | | | <p>遅刻した生徒には必ずその日のうちに学年職員等が面談するなど生徒とのコミュニケーションを図ることで遅刻5回以上の生徒0名を目指す。 校則の遵守、規範意識の育成に向けて学年での指導を徹底し、特別指導対象生徒0名を目指す。 いじめに関する対応マニュアルを徹底し、アンケート実施後2日以内に点検・報告することで早期発見・早期対応を確実に行う。 生徒の主体的な行事運営を支援し生徒の達成感を高めることで学校への誇りや愛着80%以上を目指す。 生徒会の委員会活動を活性化することで1年生の生徒会参加生徒10名以上を目指す。 部活動体験入部を充実させ入部率を向上させるとともに今年度末での部活動導入率85%以上を目指す。</p> | | |
| | | | | <p>校内研修を充実させ、教員の指導力向上を図る。異校種間交流事業を通して地域と連携を深めるとともに、生徒の豊かな心を育成する。図書館教育や芸術鑑賞、弁論大会の実施により、生徒の視野を広げる。</p> | <p>研究授業(各教科1回)や授業公開週間(年2回)などの授業改善を目指した取組を通して、教員の教科指導力向上に努める。 特別支援学校交流(高等部4回、中等部3回)や幼稚園交流(5回)を企画し、生徒及び教職員の参加を促す。 朝の読書の効果的実施を検討し、読書活動を促進する。また、芸術鑑賞や弁論大会に向けた事前指導を徹底する。</p> | |
| | <p>環境美化を推進し、学習環境の整備、充実に努める。生徒の心身の健康の保持増進と安全に学校生活が行えるようにする。学校防災訓練だけでなく、減災力の育成と地域に繋がる力の育成に努める。</p> | <p>原則、美化点検を月に2回実施することで、職員、生徒共に美化意識の育成を図る。 生徒の健康観察に努め早期発見、早期対応を行う。特にインフルエンザ等の感染症対策に努める。 地域の諸機関等と連携をして防災訓練を実施し、緊急時の対応だけでなく減災に繋がる知識と実践力をつける。</p> | | | | |
| | | <p>諸行事における早期計画のもと1月前には準備、実行する。各分掌との連携を密にし、校務の運営の円滑化を図る。また、役員会や理事会、その他PTA行事への全職員の積極的参加を促し、保護者との連携を深めて学校の活性化に努める。</p> | <p>校内の諸行事に際し、定期的に会議を開き、関連する項目の綿密な早期計画を立てる。(各行事1月前には担当教員と業務内容の確認を図る) 教務や学年等、週に1度は他の分掌のチーフと定期的に連絡を取り合う定例会を実施する。 PTA関係の行事を充実させ、参加者が増えるように、役員会や理事会の事前打合せを毎回確実に実施する。</p> | | | |
| <p>情報教育を推進し、情報機器の効果的活用と情報管理の徹底に努める。また、学校ホームページを利用し、適切な情報発信を地域社会に行う。</p> | | | <p>学校ホームページの職員研修を実施し、全職員がホームページの更新を1回以上行う。 情報機器の保守点検を月末に実施する。また、個人情報流出や情報漏えい等がないように学期に1回以上注意喚起する。 保護者連絡メールの登録者数を保護者全体の95%以上にし、学校からの情報を保護者に伝える。</p> | | | |
| | | | <p>基本的生活習慣を確立し、出席率99%以上、出席皆勤150名以上を目指すとともに、自宅学習時間1時間以上を定着させる。</p> | <p>掲示板での連絡を徹底し、自立心を高めるとともに、HRや学年集会等での話の内容を充実させる。 家庭学習時間調査を行い(1週間/月)、学習状況を把握する。 個人面談等を通して、早期の進路選択の意識付けと生活状況把握を行い、学年団で情報を共有する。</p> | | |
| | <p>基礎学力の向上のために、家庭学習時間1時間の達成を目指すとともに、上位層の学力および進路意識の向上を目指す。学校を中心とした生活作りのため出席皆勤者130名以上を目指す。また、修学旅行については、多くの生徒が主体的に参加し有意義な行事にする。</p> | | | <p>授業内容の充実並びに国語・数学・英語の週末課題を学年で計画的に実施し、家庭学習の1時間以上の定着を図る。 国語・数学・英語の希望制放課後課外の受講者を増加させ、進研模試や大学入試の過去問等を学習し、基礎学力並びに実践力の向上を目指す。 台湾修学旅行の旅行委員の活動を活発にするとともに、事前指導の時間を多く確保し内容を充実させる。</p> | | |
| | | <p>進路実現を図り、四年制大学進学者90名以上、うち国公立大学進学者15名以上、センター受験者50名以上を目指す。学習習慣確立と基礎学力向上のため、家庭学習の時間が2時間以上確保されるようにする。出席率99%以上、皆勤者100名以上を目指す。</p> | | <p>面談や進路ガイダンス等で各自の進路意識を高め、課外等の個別の学習指導を計画する。 自主的に月・週ごとの学習計画を立てさせ、担任が面談を行い学習習慣の確立に向けて指導・助言する。 基本的生活習慣を身に付けさせ、欠席・遅刻者には個別に対応し、その減少につとめる。</p> | | |
| <p>気になる生徒に関する定期的な情報交換を行ないながら、学年や他の分掌とも共同していじめや人間関係トラブルの未然防止、対応に努める。教職員自身の人権意識を磨き、各種研修会に積極的に参加する。</p> | | | | <p>同推委員会を毎週開催し、気になる生徒についての情報交換を毎回行う。 人権・同和教育や、インクルーシブ教育の研修会の情報をまめに発信し、教職員の意識を高める。</p> | | |